

令和 7 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 5	公益目的事業 16
主査名	庭田文近 城西大学教授	
研究テーマ	電気自動車の普及とエネルギー安全保障	
日本政府は 2050 年までにカーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言しており（2020 年 10 月 26 日 菅総理大臣所信表明演説）、その取り組みの 1 つとして、2035 年までに乗用車新車販売で電動車 100%を実現できるように包括的な措置を講じるとしている。こうした動きは、国内のエネルギー構造に変革をもたらすとともに、エネルギー資源の多くを海外に依存している我が国にとって、エネルギー安全保障上の影響が生じる可能性が大きい。また、その一方で、アメリカでは 2025 年 1 月に大統領に返り咲いたトランプ政権が電気自動車促進策の撤廃や化石燃料の増産を表明しており、世界の自動車・エネルギーを巡る動きは混沌としてきている。 このような世界情勢のなかで、本研究では、日本における内燃機関の自動車が電気自動車に全面的に代替された場合のエネルギー安全保障への影響を評価する。日本はエネルギー資源の多くを海外からの輸入に依存しており、電気自動車の普及は石油輸入依存度が低下する可能性がある一方で、電力需要の増加により新たなエネルギー課題が生じることが予想される。 そこで、日本における自動車のエネルギー転換について、石油輸入依存度や電力需要の変化、再生可能エネルギーの活用性、エネルギー供給の安定性からエネルギー安全保障を議論するとともに、その経済・環境・社会に与える影響も分析し、持続可能な交通エネルギー政策の提言を目指す。 研究の方法として、以下の各項目について、研究メンバー（または招聘講師）による報告、および各専門分野（環境・資源経済学、交通経済学、公共経済、経済政策、政治学、行政学等）の観点からの議論を行い、エネルギー安全保障を踏まえた持続可能な交通エネルギー政策を検討する。 ① 日本の自動車の電動化の現状と展望 ② 日本のエネルギー需給の現状とエネルギー安全保障 ③ 海外における自動車の電動化を巡る状況 ④ 日本における自動車のエネルギー転換による社会・経済・環境およびエネルギー安全保障への影響の検討		